

ゆとりある教育を求め 全国の教育条件を 調べる会 ニュース

2015.5.24発行

NO.39

東京都教組等学習会と
早春と春研の報告です。

都教組等主催 教職員定数問題学習会

3月14日(土) エデュカス東京

講師 山崎洋介 参加者 23人

東京都教職員組合、東京都教職員組合事務職員部、東京学校事務職員制度研究会、東京の民主教育をすすめる教育研究会議教育条件整備部の四団体が主催して開催された「どうなっているの？教職員定数のしくみ 教職員定数問題学習会」において山崎事務局長が講師をつとめました。23人の参加者がありました。

参加者からは「組織や仕組みがよく理解できた。」「定数、予算がどう決まるか知ることが大切だと思った。」などの感想がよせられました。

調べる会の 調べ方交流研究会

3月15日(日) エデュカス東京 参加者6人

調べる会冬の研究会をエデュカス東京で行いました。報告者は以下の通りでした。

鈴木つや子「愛知県の少人数学級の状況 全国の状況との比較をもとに」

高木義隆「学校統廃合の

何が財政的メリットなのか？」

橋口幽美「公文書に見る少人数学級制と教職員配置の状況、及び財政的負担(一覧)」

論議を通しこれからの研究の方向性が見えてきたように思いました。(山崎)

調べる会 はじめての宮崎

清武町文化会館と、調べる会資料室あ荘を会場にしての春研が行われました。報告者は以下の通りでした。

講座「地方交付税のしくみ」講師：大和田一紘

鈴木つや子「少子化と学校教育」

村田峻一「アメリカの学校視察報告」

橋口幽美「公文書に見る少人数学級制と教職員配置の状況、及び財政負担(一覧)」

山崎洋介「沖縄と東京の分析からわかること」

お二人の方から感想(別紙)が届きましたので、お読みください。

会員相互のつつこんだ意見交換も出来、用語の問題なども議論が深められました。このような合宿形式の研究会をまた出来るといいです。(橋口)

夏の総会&研究会

夏の総会と研究会の会場と日程を検討中です。

ご希望の日程、会場等お知らせください。

2015教育のつどいレポート報告

8月16日(日)~18日(火)に2015教育のつどいが仙台市で開催予定です。

調べる会からは21分科会「教育条件確立の運動」に山崎と橋口がレポート報告の予定です。参加を希望される方はご連絡ください。

お知らせ

最近の
発行パンフレット

NO 26 再任用制度について

鈴木つや子 著

配布済

NO 27 定数・実数他(02)

&

宮澤孝子・草宮大輔

NO 28 決算・申請他(01)

作成中、近日発行

NO 29 各県教育条件一覧

& 橋口幽美

以上が、今年に入って発行(発行予定)のパンフレットです。今回は、NO 27と29を同封します。

ご意見・ご感想をお願いいたします。

「春研 in 宮崎」参加感想

鈴木つや子

毎回、気持ちよくしゃべらせて（飲ませて）いただき、橋口さん、講師の大和田先生、小宮さん、山崎さん、草宮さん、村田さんに感謝申し上げます。わたしは、一日目の自分の発表を済ませ、二日目午前の大和田先生の講義まで参加した後、家族の事情により早々に帰宅しました。帰宅後は、思いがけず遠方からやってきた3人の孫の世話をすることになりました。（しかし、ばあちゃん＜私＞の問題意識は、“この孫あればこそ”なのです。）

さて、自分の報告については、反省すべきところが多々あります。前半の「学校統廃合」の報告では、パワーポイントを使って時間を有効に使ったのですが、後半の「愛知県内市町村費による少人数学級」の報告では、皆様の手元に調査資料をお渡しせず、パワーポイントのスライドのみで分かりにくかったと思います。次の日、大和田先生は、資料を文書とパワーポイントスライドの両方で説明され、参会者が資料を共有できました。この時に大量のコピーをしていただいた村田さんに感謝です！

大和田一紘先生の著書『増補版 習うより慣れろの市町村財政分析』（2009）（新版が10月に出るそうです）を碧南市民図書館にリクエストし、愛知県図書館から入手しました。これをまず読んで、碧南市の財政分析に挑戦しようと思います。自分の調査研究の次の課題を見つけることができました。「市町村費による少人数学級制」を調査するには、市町村財政分析が欠かせないからです。

小宮さんから、東京の小中連携校の話、久しぶりの事務職員採用の話聞き、参考になりました。山崎さんからは、毎回鋭いご指摘（用語の定義、統計数値の取り扱い等）をいただき感謝しています。村田さんは、ミリタリースクールをはじめとする、アメリカの職業学校の状況を写真で示していただきました。草宮さんから、若いパワーをいただき、物事を冷静に見て、地道に積み上げていくことの重要性を教えてくださいました。橋口さんからは、一つのことを長く深く追及することの大切さを教えてくださいました。

地理と地質とジオパークと旅行大好きなわたしにとって、楽しい旅行でした。プロペラ機に乗ったおかげで、紀伊半島中南部すべてと四国室戸岬、足摺岬を上空から見ることができました。橋口さんは「あ荘（資料室）」を開放して、合宿の機会を与您いただき、食・住に関して、お世話いただきました。感謝申し上げます。宮崎特産のマンゴウを用意していただきました。絶対よそでは食べられません。おいしかったですよ。

今度は、ゆっくり宮崎県内を楽しみたいです。宮崎県は愛知県よりも四国よりもずっとずっと南で暖かく、人も温かく、高い山に囲まれ、自然に恵まれたところでした。

夏の研究会で、また報告できるようにがんばります。皆様にお会いできることを楽しみにしております。

「春研 i n 宮崎」の参加感想 事務局長 山崎洋介

ゴールデンウィーク。まさに、その名にふさわしい4日間でした。

東京での学習会の折、私が無気なく言った「今度の学習会はぜひ宮崎で。」の提案がみんなに受け入れられて、橋口さんの地元宮崎市清武町に5名の参加者が集まりました。

鈴木さんの「少子化と学校教育」の報は、増田寛也著『地方消滅』のセンセーショナルな消滅可能性都市リストや「選択と集中」論、そしてそれに沿ったような政府・文科省の小規模校の統廃合の推進、少子化に伴う教育予算の削減を批判しつつ、自立を志向し人口減少や少子化とたたかう地域の教育政策を紹介し、その意義と教訓をさぐろうとするものでした。

私も、「少子化だから教育予算が削減されるのは当然」という論理は逆立ちしていると主張してきました。少子化の根本原因は、子どもを産み育てていく環境が貧困だからであり、教育費がかかりすぎることです。

鈴木さんの主張されるように、少子化だからこそ少人数学級制の条件が整っているし、小規模校のメリットを活かせるはずです。増田氏の地方消滅論は、むしろ自立のために奮闘する人々からやる気を奪い、あきらめさせる役割を果たしているという鈴木さんの指摘に共感しました。

教育に必要なものは、ヒトとカネ。今こそ、教職員と教育予算を大幅に増やし、教育条件を充実させることこそが必要で、その結果、少子化も解決し、地方の活性化も実現できると思いました。

村田さんのアメリカの教育報告は衝撃的でした。新自由主義的教育が行きつくところはどんなところなのか、探ろうと調査に出かけた先は、ミリタリースクールだったそうです。

日本でいえば中学生から、兵隊になるための専門学校に通う子どもたち。そこでは、全員に iPad が配られ、ゲームのように各人が「すぐれた兵」となるべく競わされているそうです。

堤未果さんの一連のルポルタージュなどで、もはや国家そのものがグローバル大企業に買収され、国民生活のあらゆるものが企業の利益のために奉仕させられているアメリカ合衆国の姿を、まるで近未来小説のような感覚で読んではいましたが、「次は日本だ！」と警告する堤さんの予言が、教育にも当てはまるのかと空恐ろしくなる報告でした。

橋口さんの報告は、本会の以前からの課題である「データブック」作成にむけての全国教育条件カードの試案の提案でした。私たちの取り組んできている教育財政分析を、大和田先生たちが全国で取り組んでおられる自治体財政分析のような市民研究運動にしていくためには、分析比較可能な指標が必要です。いよいよその試案が示され、論議にかけられましたので、今後、会員のみなさんとともに全国データ入力して分析に入りたいと思います。ぜひご参加ください。

大和田一紘先生の講座「地方交付税のしくみ」は、新しい「目」を開かされました。

欧米と違い、地方政治における司法権が確立していない日本では、運動や参加によって住民自治が司法権を担うべきだという指摘は説得力があります。そのために、住民が地方財政を分析する力をもつことは決定的に重要で、自治体財政分析の運動はすでに第二ステージへと入っているとのことでした。

組合運動でも住民運動でも、「財政が厳しいので、『ない袖は振れない』」とばかりに要求はしりぞけられ、制度が後退させられるのを阻止できないで苦い思いをするばかりの昨今、本当のところ財政はどうなっているのか、要求前進のためには何が必要なのかを考え、政策化し、提案していくためには、財政に強くならなければならないと思うばかりです。

地方交付税算定台帳、決算カード、決算統計、類似団体比較カード・・・私たちのもとめる「お宝」の鉱脈のありかを教えてくださったような気持ちになりました。今後私たちなりの研究を進めて、また大和田先生にアドバイスやご意見をいただけたらいいなあと思いました。

私は特に、大和田先生の「地方交付税は、狭い国土にまんべんなく国民が住み、生活するための財政計画のためにある」という言葉が大変印象的でした。

学習会後の、学生時代の合宿のようなたのしい宴会とおしゃべり、申し分のないお天気のもとでの宮崎観光。文字通り満喫した4日間でした。

学習会準備や食事、宿泊などで、橋口さんには本当にお世話になりました。ありがとうございました。こんな風に全国各地の会員の地元で学習会ができたらいよいよねと話しながら、宮崎を後にしました。

橋口注

（訪ねた観光地　：　青島、堀切峠、鶴戸神宮、飫肥城下町、高千穂牧場、関ノ尾の滝、宮崎神宮）

宮崎神宮では、山崎さんの逆ガイドで、森が人工的に作られた経緯を説明してくださいました。

知らなかった！！